

岩手県立図書館 子ども向け  きょうどしりょう 郷土資料

vol.6

# チャグチャグ馬コ



画像提供：滝沢市

岩手県立図書館指定管理者

岩手県立図書館 子ども向け郷土資料 きょうどしりょう  
Vol.6 チャグチャグ馬コ  
もくじ

岩手の馬と歴史	1
岩手の馬とくらし	5
チャグチャグ馬コの歴史	8
チャグチャグ馬コあれこれ	12
岩手の馬コマップ	14
<small>さんこうぶんけん</small> 参考文献	16

こんにちは。岩手県立図書館マスコットキャラクターの「そめちゃん」です。  
突然ですが、クイズです。毎年6月第2土曜日に行われる、岩手の風物詩は  
何でしょう？こたえは、チャグチャグ馬コ！色鮮やかな装束で着飾った馬たちの  
パレードを見たことはあるかな？

でも、チャグチャグ馬コって、どうやって始まったんだろう？  
岩手の馬の歴史や、くらしと何か関係があるのかな……。  
そうだ、図書館に行って、岩手の馬について調べてみよう！





# 岩手の馬と歴史



岩手県をふくむ東北地方は、古くから馬の産地として知られていました。岩手の人々と馬との関わり  
の歴史を、時代をおってたどってみましょう。

## 平泉と馬

東北地方は、古くはエミシ(蝦夷)とよばれた人々の住む地でした。エミシはすぐれた馬を持ち、馬に乗  
って戦うことも得意としていました。岩手周辺は、平安時代のはじめ頃に朝廷の支配下となります。エミシ  
の馬は、都の貴族たちの間で最高級品として高い人気をほこりました。平安時代末期、東北地方を治め  
た奥州藤原氏は、中尊寺金色堂を建立するなど、本拠地の平泉を中心に豊かな文化をきずきました。  
奥州藤原氏の力の元となったのは、金色堂に代表される金とともに、名産品だった馬でした。奥州藤原  
氏は金や馬を都の貴族に贈り、結びつきを強めました。藤原基衡が都に送った品々の中に「糠部駿馬」  
があります。糠部とは、現在の岩手県北部～青森県東部地域のことで、やがて有名な馬産地となります。  
一戸から九戸までの9つの「戸」、東西南北の4つの「門」に分けられ、馬を育てる牧場がありました。  
「戸」の区画は江戸時代の盛岡藩にも受け継がれ、現在も地名として残っています。



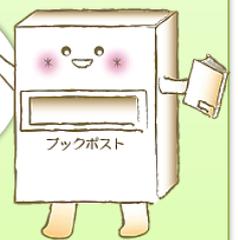
うじがわだいかっせんず だいにほんれきしにしきえ  
「宇治川大合戦図」(『大日本歴史錦絵』)  
こくりつこっかいとしよかん  
国立国会図書館デジタルコレクションより

うじがわがっせん せんじんあらせ ささきたかつな かじわらかげすえ うま  
宇治川合戦の先陣争いをした佐々木高綱と梶原景季の馬  
は、それぞれ七戸、三戸産の糠部駿馬。熊谷直実の名馬・権太  
栗毛は一戸生まれ、とする説があります。

## ポストン 豆ちしき

岩手ゆかりの馬は、源氏と  
平氏が戦った源平合戦でも  
活躍したと言われているよ

かまくらぼくふ  
鎌倉幕府をひらいた  
みなもとのよりとも よしつね あいば  
源頼朝の弟義経の愛馬  
たゆうぐろ いちのせきしせんまやちよう  
太夫黒は一関市千厩町生  
まれという伝説も!



すずめちんじるし うまのかね  
雀紋印の馬印

馬の産地や所属を示すために馬の皮ふに押す焼印を「馬印」という  
んだって。中世の馬産の資料『永正五年馬焼印図』には、一戸7ヶ村  
の馬に烙印されていた印が左右とも「雀印」であったことが記され  
ているよ。1986年(昭和61)に一戸城跡から出土したこの焼印は、  
出土状況から中世のものと考えられていて、糠部の馬産を  
知る上で貴重な資料だよ。

がそうていまいよう ごしよ のじょうちんはくぶつかん  
画像提供:御所野縄文博物館



# えど 江戸時代

名馬の産地としての伝統は、江戸時代に盛岡藩(岩手県北部と青森県東部)を治めた南部氏にも引き継がれました。南部氏は江戸の将軍や大名たちに、たびたび馬を贈っていました。馬は、南部氏が将軍や大名たちと友好関係を保つことに、重要な役割をはたしました。

盛岡藩では、領内に9つの「御野」(藩営の牧場)を置き、良馬を生産・管理していました。それぞれの牧場には父馬1頭に対して多くの母馬が飼育されていました。この藩の牧場で飼育される「御野馬」とは別に、一般の人たちが育てている馬を「里馬」と呼びました。里馬であっても藩の許可なく移動・売買することは禁止されていました。南部馬のブランドを保つため、藩はよい馬を勝手に領外に持ち出すことを禁じるなど、厳しく管理していたのです。



南部駒の「馬市」

『江戸名所図会』天保5~7年(1834~36)  
国立国会図書館デジタルコレクションより

南部馬は、他の馬より体高(背の高さ)が大きく、見た目も性質もよく、大人気だったんだって!

## 盛岡藩の牧場 南部九牧

盛岡藩の牧場は時代によってちがいがありますが、江戸時代中期

には、図のような場所に9つあったと考えられています。これらは、「南部の九牧」として知られていました。

岩手北部と青森東部が盛岡藩領だよ



けんりつとしょかん 県立図書館  
たからはいけん のお宝拝見!

江戸時代の藩の牧場をえがいた『南部九牧之図』



- ① 三崎野
- ② 北野
- ③ 住谷野
- ④ 相内野
- ⑤ 又重野
- ⑥ 木崎野
- ⑦ 蟻戸野
- ⑧ 奥戸野
- ⑨ 大間野



図は全部で9枚。江戸時代の牧場の様子がわかる貴重な資料だね。



盛岡藩の歴史書の牧についての部分 『内史畧 前二十』横川良助 江戸後期

# 明治～大正時代

名馬の産地としての伝統は、盛岡藩が岩手県の一部となった明治時代以降も引き継がれ、馬の生産は、岩手県の重要な産業の一つとなりました。岩手県は、1876年(明治9)藪川村(現盛岡市)に県営の外山牧場を開き、1879年(明治12)には動物の医者を育てる学校・獣医学舎を設けました。これは全国で2番目に早い設立でした(1番目は東京の駒場農学校)。

はじめは県が行っていた馬の生産事業ですが、1881年(明治14)盛岡の政治家で県会議長だった上田農夫(1848～1895)らが産馬会社を設立し、民間による馬産と売買を実現させました。馬の代金の一部を県に納める制度が改められ、岩手の馬の生産事業の発展に大きな役割をはたしたのです。



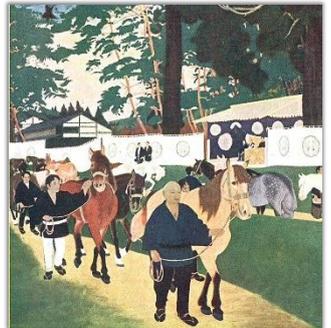
うえだ のりふ  
上田 農夫

がそうていきょう  
画像提供：  
ちりおかしせんじんきねんかん  
盛岡市先人記念館

## 明治天皇の東北巡幸と馬

明治時代のはじめには、天皇が全国各地を見てまわる「巡幸」が行われました。1876年(明治9)の東北巡幸では岩手県を訪れ、盛岡八幡宮で約400頭の県産馬の行列を見たといわれています。

このとき、県内で飼われていた馬・金華山号は、名馬とみとめられ、明治天皇の馬として活躍することになりました。



もりおかはちまんぐう てんらん  
「盛岡八幡宮で馬の天覧」

『明治九年岩手県御巡幸録』  
岩手県庁 1940年(昭和15)  
国立国会図書館デジタルコレクションより



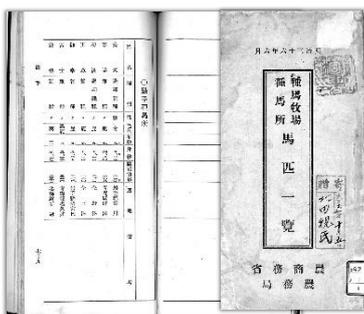
めいじてんのう  
明治天皇の馬のスケッチ  
おんまやしんめきんかざんごう  
『御厩神馬金華山号』



けんりつとしょかん  
県立図書館  
たからはいけん  
のお宝拝見!

スケッチの作者は、馬の彫刻で有名な明治時代の彫刻家・後藤貞行!

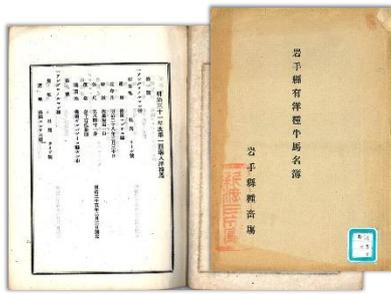
江戸時代には最上級の馬として知られていた南部馬ですが、明治時代に入り、外国産の体の大きな馬が本格的に輸入されるようになると、以前のような高い評価をえることができなくなりました。南部馬を



しゅまぼくじょうしゅまぼしよばつひいちらん  
『種馬牧場種馬所馬匹一覽』

のうしやうおしやうのうむまきく  
農商務省農務局 1903年(明治36)

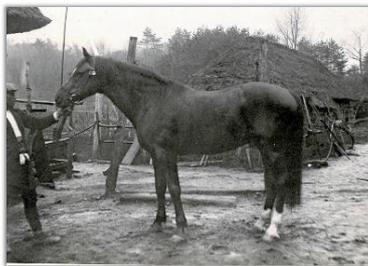
含む日本の馬は、外国の馬より小型だったのです。外国と対等につきあっていくことを目指した明治の日本は、近代化を進め、軍事力を強化する必要がありました。この頃の戦争には、体の大きな軍馬がたくさん必要で、馬の体を大きく品種改良し、たくさん生産することは、国の重要な課題となりました。そこで1896年(明治29)、農商務省の岩手種馬所(馬の生産や改良をすすめる政府の施設)が滝沢村(現滝沢市)につくられたのでした。



『岩手県有洋種牛馬名簿』  
岩手県種畜場 九草堂  
1902年(明治35)

また、同じ年に陸軍の軍馬を生産する機関が東京を本部として全国的に整えられ、岩手県では小鳥谷村(現一戸町)に、三本木支部(青森県)の中山派出所が設けられました。1898年(明治31)には相去村(現金ヶ崎町)に六原支部がつけられました。

このほか、岩手独自でも外山牧場などに外国産の馬を導入して品種改良の取り組みが行われ、こうした動きが岩手での馬の生産をより盛んなものにしていきました。農家にとって農作業の手助けとなる馬の飼育は、明治時代以降、軍馬を育てて売るにより高収入を期待できる重要な産業となりました。県内の産馬数は明治後期には1万頭台で、1924年(大正13)には馬生産数日本一になりました。



1903年(明治36)第5回内国勸業博覧会で一等賞。盛岡産馬組合の第二ラハエール。『岩手県名馬集』田口商店  
1912年(明治45)



1909年(明治42)盛岡に、陸軍の馬に乗って戦う部隊・騎兵第3旅団ができたよ。

『写真集』(出版者不明)より



### 岩手の

## 馬育て名人 一條 牧夫(1858~1938)

岩手の馬の改良や牧場の整備に活躍したのが、盛岡生まれの一條牧夫です。1876年(明治9)開校の駒場農学校に学び、1881年(明治14)外山牧場の顧問になります。1898年(明治31)に開設された岩手県の種馬厩(後に岩手県種畜場)の場長となり、フランス・イギリスの優良馬を輸入、岩手アングロノルマンという改良馬を生み出すなど、優良な県産馬の基礎をつくりました。



一條 牧夫

画像提供:

盛岡市先人記念館



「牧夫」は、牧場で動物を育てる人のこと。自分の名前が九草堂で改名したんだって!

県内各地で大にぎわい

## 秋のビッグイベント 馬市



毎年9~12月、2歳の馬を取り引きする馬市が、県内各地で日付が重ならないよう調整されて開かれました。明治後期~大正時代には、1年平均9,208頭の馬が取り引きされました。農業用の馬だけでなく、軍馬の買い上げの場でもあり、軍馬は農業用の馬の約2倍の値段がつけられました。

農家の人々にとって、秋は米の豊作と馬の高値を願う季節だったのです。馬市には農家の家族全員が馬を引いて出かけ、お祭りのようににぎわいが見られました。

『絵かきアルバム 盛岡編2』(岩手県立図書館 1980)より



# 岩手の馬とくらし

古くから馬とともにくらししてきた岩手の人々。生活の中で、馬に関わる信仰や習慣、行事やお祭りが生まれました。そのなごりを見ることができる、代表的な例を紹介します。

## 蒼前さま・駒形さま

岩手県内では、馬の神が6種類確認されています。青麻宮、駒形神、蒼前神、白山神、馬頭観音、馬櫛神の6つです。その中で最も古く、数も多いのが「蒼前神」で、地元では「蒼前さま」とよばれています。神像は馬に乗った男の神さまです。また、「駒形さま」ともよばれる「駒形神」は、元々は生産の神であったとされ、東北地方に入ってきたのは奈良時代ごろと考えられています。



画像提供：滝沢市観光協会

「駒形さま」は、各地の駒ヶ岳山頂にまつられていましたが、後に馬をまつる「蒼前さま」と結びつきます。やがて県内各地に駒形神社が建立され、明治時代には馬の神さまとして人々の身近な存在となりました。

## 南部まがり家

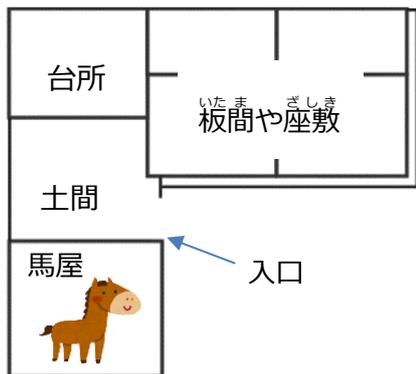


画像提供：(株)遠野ふるさと商社

曲り家は、母屋と馬屋が一体となった、L字型に折れ曲がった形の住宅です。岩手県内の曲り家は、南部氏が治めていた旧盛岡藩領の盛岡、遠野市を中心に多く見られ、南部曲り家とよばれています。現在も残っている曲り家は、江戸時代後期から大正期に建てられました。

東側に台所、南側に馬屋が付いた形が一般的で、出入り口はL字の内角部分にあります。台所や居間からでも馬の様子が見える構造になっており、馬の健康管理の面でも便利な間取りが特徴です。土間は、収穫物の作業場や馬の飼葉置き場として使われていました。ひとつ屋根の下で、人と馬が寝起きをともにしていた暮らしがうかがえます。

### 南部曲り家の間取り例



## こまおど 駒踊り

青森県八戸地方から旧盛岡藩<sup>きゅうもりおかはん</sup>一帯に伝えられている、  
集団<sup>しゅうだん</sup>で踊る民俗芸能<sup>おど</sup>で、江戸時代の竹馬遊び<sup>みんぞくげいのう</sup>が集団化<sup>えど</sup>して  
始まったといわれています。

馬頭<sup>お</sup>と尾<sup>お</sup>をつけた竹の輪<sup>こし</sup>を腰<sup>こし</sup>に着け、放牧した馬<sup>ま</sup>がたわ  
おれているところや、馬<sup>ま</sup>を追いつめる野馬追<sup>のまおい</sup>のようすなどを  
太鼓<sup>たいこ</sup>や笛の音とともに、にぎやかに踊ります。

田植え<sup>たいこ</sup>のお祝い<sup>たいこ</sup>や牛馬<sup>むま</sup>の無病息災<sup>むびょうそくさい</sup>を祈願<sup>きがん</sup>して、各地の  
まつりなどで奉納<sup>ほうのう</sup>されます。



がぞうていきょう いわてまちまきかくしやうこうか  
画像提供：岩手町企画商工課

## やぶさめ



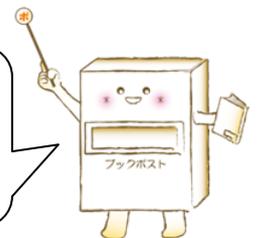
がぞうていきょう とおのごうはちまんぐう  
画像提供：遠野郷八幡宮

やぶさめは、疾走<sup>しっそう</sup>する馬の上<sup>い</sup>からの的に矢<sup>や</sup>を射る、とても勇壮<sup>ゆうそう</sup>な  
武術<sup>ぶじゆつ</sup>です。狩り装束<sup>か</sup>の射手<sup>しやしゆ</sup>が、馬<sup>ま</sup>を走らせながら三つの的<sup>てき</sup>をねらい  
ます。岩手県内では、室町時代半ば<sup>せいき</sup>の西暦1400年ころから、神事<sup>しんじ</sup>  
として奉納<sup>ほうのう</sup>されるようになったといわれ、天下泰平<sup>てんかたいへい</sup>・子孫繁栄<sup>しそはんえい</sup>などを  
祈願<sup>きがん</sup>して行なわれています。遠野市<sup>と</sup>の遠野郷八幡宮例祭<sup>とのおのごうはちまんぐうれいさい</sup>や、  
盛岡市<sup>もりおかし</sup>の盛岡八幡宮例大祭<sup>もりおかはちまんぐうれいたいさい</sup>などのやぶさめが、よく知られています。



かっこいいね!!

ワラの馬に、米の粉をねった  
「しとぎ」をくわえさせる  
地域<sup>ちいき</sup>もあるんだって!



## 馬コツナギ

6月に行われる神送りの行事で、  
ウマツコツナギ、マツコツナギともいわれ  
ます。送るのは、田の神<sup>てんのう</sup>さま、または天王<sup>てんのう</sup>  
さま(牛頭天王<sup>ごずてんのう</sup>。疫病<sup>えきびやう</sup>を防ぐ神<sup>ふせ</sup>)で、わら  
や紙で作った馬<sup>うしがみ</sup>を、田のあぜ、氏神<sup>うぢがみ</sup>、  
井戸<sup>いど</sup>などに供<sup>そな</sup>えます。神さまが馬に乗り  
田と馬を見守ってくれる、神々が集まる  
神社<sup>てんのう</sup>に天王さまをワラ馬に乘せて送る  
など、いくつかのいわれが残っています。



がぞうていきょう いっしや とおの  
画像提供：(一社) 遠野ふるさと公社

## オシラサマ



がそうていきょう いわてけんりつはくぶつかん  
画像提供：岩手県立博物館

オシラサマは、旧家に祭られている神さまで、養蚕や目の神といわれています。30センチ位の木や竹で作られた、二体一組の像です。頭部にそれぞれ娘と馬、男神と女神などが彫られています。気仙・上閉伊・下閉伊・九戸・二戸地方に多く見られます。

オセンダクといわれる布をかぶせ、普段はほこらや、神棚に置かれています。布で頭部が見えないものと、布の切り目から頭部が見えるものがあります。

祭日は1月中旬のところが多く、この日になると、地域の人や親族が集まり、新しい布を着せます。柳田國男の『遠野物語』に、オシラサマにまつわる民話が紹介され、広く知られるようになりました。

## 絵馬

絵馬は、馬、てんぐ、剣、干支など、さまざまな絵が描かれた額で、祈願や感謝のために神社やお寺に奉納されます。また、神社やお寺から授けられたものを馬屋などに掛けることもあります。

生きた馬を神仏に奉納していたことが始まりとされ、本物の馬のかわりに、木などで作られるようになったといわれています。横長の大絵馬と吊りかけ式の小絵馬があります。盛岡藩では馬を題材とする、すぐれた小絵馬が生まれました。これらは南部小絵馬とよばれています。



がそうていきょう いわてけんりつはくぶつかん  
画像提供：岩手県立博物館

柳田國男の『遠野物語』には、オシラサマの由来が紹介されているよ。

ある娘が馬と結婚し、怒った父親がその馬を殺してしまう。

娘は嘆き悲しんで馬の首と共に天に上り、オシラサマになった。

なんだか悲しいお話だね……。

また、オシラサマは狩りの神ともいわれていて、狩猟のときにオシラサマを手を持つと、その向いた方向に必ず獲物がある、という超能力みたいな伝説もあるそうだよ。



# れきし チャグチャグ馬コの歴史



岩手の人々と馬との暮らしの中で生まれた、伝統行事「チャグチャグ馬コ」は、どのようにしてはじまったのでしょうか。その歴史をたどってみましょう。

## そうぜん 蒼前まいり

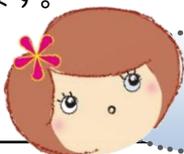
1926年(大正15)に作られたガイドブック『盛岡案内記』に、盛岡の名物行事として「蒼前まいり」が紹介されています。朝早くから、かざりつけられた馬に乗った人々が、岩手山のふもとにある駒形神社(滝沢市の鬼越蒼前神社)におまいりしようと駆けていく様子がかかれていいます。それらの馬は、「チャグチャグ馬コ」とよばれ、そのすがたを見物しようと多くの人が集まった、とあります。

昔からたくさんの馬を育ててきた岩手では、馬の守り神である蒼前さまの信仰がさかんでした。また、このような機械がなかった時代、力の強い馬は畑仕事を手つだってくれる大切な働き手でもありました。このため、いつのころからか、蒼前さまのお祭りの日には、馬たちも休ませて、いっしょにおまいりする風習が生まれました。いつもがんばってくれている馬への感謝と、その健康への願いがこめられた風習「蒼前まいり」が、伝統行事「チャグチャグ馬コ」の元になったといわれています。

## いわて いじん 岩手の偉人 賢治と啄木が見たチャグチャグ馬コ

岩手が生んだ文学者・石川啄木と宮沢賢治。ともに明治時代生まれで、盛岡で学生生活を送りました。

**いしかわたくぼく 石川啄木** たくぼく もりおか  
啄木のふるさと盛岡市玉山区の芋田駒形神社にも、滝沢市の駒形神社と同じような「蒼前まいり」の風習がありました。1906年(明治39)8月の啄木の日記には、芋田の駒形神社へ着かざった馬で駆ける若者らの様子がかかれていいます。チャグチャグ馬コのパレードの元となった「蒼前まいり」の様子を生き生きと伝え、「みちのくの詩」とたたえています。



今のチャグチャグ馬コとはちがうけど…二人とも見たことがあるんだね

二人はチャグチャグ馬コを見たのかな？作品や日記を調べてみたよ。

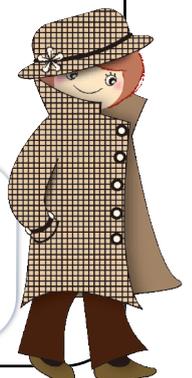


**みやざわけんじ 宮沢賢治** もりおか  
1917年(大正6)6月、盛岡市の下の橋近くで見物した、チャグチャグ馬コたちの様子を短歌によんでいます。

よの間から ちゃんがちゃんがうまこ  
見るべとて 下の橋には いっぱ 人立つ

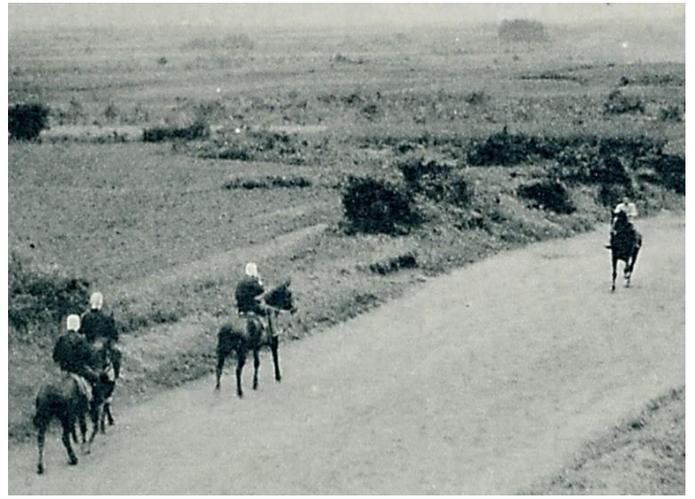
げんざい  
現在のようなパレードは行われていませんでしたが、夜明け前から、多くの見物人が集まっている様子がかがえます。

賢治には「ちゃんが ちゃんが」と聞こえたのかな



## 馬コパレードのはじまり

現在の「チャグチャグ馬コ」は、滝沢の駒形神社から盛岡八幡宮までをみんなで行進する、はなやかなパレードですが、昔は個人それぞれが馬を走らせて蒼前さまにおまいりをする信仰行事でした。『盛岡案内記』に、そのころの写真があります。



今のように、そろって行進するようになったのは、1931年(昭和6)以降のことです。

1930年(昭和5)秋、当時岩手県をおとずれていた秩父宮殿下に、盛岡の名物行事「蒼前まいり」の風景をごらんいただき、盛岡八幡宮から馬検場(盛岡市松尾町)まで馬コを行進行列をひろう

個人でおまいりしていたころのチャグチャグ馬コ

『盛岡案内記』(盛岡銀行 1926)より

しました。その影響で、次の年の1931年(昭和6)には盛岡八幡宮から滝沢の駒形神社への往復行列となり、これが現在のパレードのきっかけになったといわれています。

秩父宮殿下は、当時の天皇陛下である昭和天皇の弟にあたるよ。

実は、お兄さんの昭和天皇も、まだ皇太子だった1918年(大正7)7月、盛岡をおとずれていたときに「蒼前まいり」を再現した馬コを行列を、ごらんになっているんだ。

どちらの年も、旧暦5月5日に行われる通常の「蒼前まいり」は終わったあとだったから、1918年(大正7)と1930年(昭和5)は、「蒼前まいり」が2回あったことになるね。



## 戦争と馬コパレードの中止

本来の「蒼前まいり」は、農作業を手伝ってくれる馬をいたわる行事で、おまいりする馬も農耕馬がほとんどでした。しかし、パレードが始まった1931年(昭和6)ころから、戦争のために訓練された軍馬(鍛錬馬)も加わるようになりました。

1937年(昭和12)に戦争が始まると、軍馬人気がもりあがり、よりたくさんの鍛錬馬が参加するようになりました。1939年(昭和14)のパレードには、数百頭もの鍛錬馬が参加したといわれています。しかし、戦争がはげしくなってくると、今度はパレードを行うこと自体がむずかしくなっていました。1945年(昭和20)には、パレードが中止されています。そして、この年の8月15日に戦争は終わりました。

## チャグチャグ馬コのうつつりかわり

馬コのパレードが再開されたのは、1947年(昭和22)のことです。馬の数こそ多くはありませんでしたが、伝統行事の復活は、戦争が終わったばかりで暗い気持ちでくらしていた人々の心をいやしました。

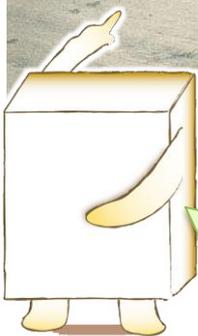
しかし、時代がうつつりかわり、それまで馬に手伝ってもらっていた畑仕事にトラクターなどの機械が使われるようになると、馬をかう農家がしだいに少なくなっていきました。また、自動車に乗る人が多くなったことで車の行き来がふえ、昔のように馬を走らせて蒼前さまにおまいりすることが、むずかしくなっていました。芋田の駒形神社(盛岡市玉山区)など、「蒼前まいり」が行われなくなっていったところもあります。チャグチャグ馬コも同じように、だんだんと参加する馬がへってきていました。そういった中、ふるさとのこの伝統行事をなんとかしてもりあげ、未来にのこしていこうと作られたのが「チャグチャグ馬コ保存会」「チャグチャグ馬コ同好会」「チャグチャグ馬コ振興協賛会」などの団体です。

1948年(昭和23)に民間団体として作られた保存会は、1950年(昭和25)に当時の盛岡市長だった小泉多三郎によって盛岡市役所内に事務局がうつされ、翌年には農林課から観光課へと担当が変わりました。「チャグチャグ馬コ」を伝統行事として保存するだけでなく、観光にも役立つようと、行列や衣装など、見に来た人たちに楽しんでもらえる様々な工夫がこらされました。昔ながらの蒼前まいりから、今わたしたちがよく知っているチャグチャグ馬コの姿に変わっていったのは、このころからとされています。

1931年(昭和6)にパレードの形で行われた後も、年によってはコースが変わったり、個人個人のおまいりの形をとることもありましたが、1950年(昭和25)ころから、滝沢市の駒形神社でおまいりしてから、

みんなで列を組んで盛岡八幡宮へ向かうコースが定着しました。また、衣装を合わせるようになったのもこのころです。チャグチャグ馬コの衣装は小荷駄装束と呼ばれる伝統的な馬装束をもとにしてありますが、昔はすべての馬がこの装束だったわけではなく、鳴り輪と鞍だけの馬や何も着けていない馬も参加していました。そこで、もっとはなやかで見ごたえのある行列にするために、馬は小荷駄装束、男は乗馬ズボンに黒のはんてん、女は霰石あねっこ姿というおなじみの衣装で合わせるようになっていきました。

1932年(昭和7)ころのチャグチャグ馬コ



むかしのチャグチャグ馬コでは馬のおもな乗り手は馬の飼い主だったんだけど、昭和25年ころから子どもたちも乗ることがふえたよ

『絵葉書アルバム 盛岡編1』(岩手県立図書館 1980)より

1958年(昭和33)には、開催日がこれまでの旧暦5月5日から6月15日になっています。旧暦というのは、昔のカレンダーのことです。今のカレンダーとは1年の長さがちがうため、旧暦の5月5日を今のカレンダーに直そうとすると、年によって日づけが変わってしまいます。田植えのいそがしい時期に重なってしまう年もありました。そこで、もっと「チャグチャグ馬コ」に参加しやすくしようと、毎年6月15日に固定することになりました。さらに、2001年(平成13)からは、よりたくさんの馬が参加できるように、よりたくさんの人が見に来られるようにと、開催日を6月第2土曜日に変更しています。

1978年(昭和53)には文化庁から「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に、1996年(平成8)には、「チャグチャグ」と鳴る鈴の音から、環境省の「残したい日本の音風景100選」にえらばれるなど、盛岡の初夏の風物詩として全国にも知られるようになっていきました。

## 検証! 「チャグチャグ馬コ雨知らず」

チャグチャグ馬コが行われる日は、梅雨時にも関わらず晴れるとされ、「チャグチャグ馬コ雨知らず」ともいわれます。

この言い伝えは本当？  
図書館にある新聞と本で、天気を調べてみたよ。



年代	主な天気	開催日
昭和13	大雨	旧暦 5月5日
昭和7、10、11、16	そのほか 雨が	
昭和33		
昭和38、39	小雨	
昭和40	はれ 晴	新暦 6月15日
平成4		
平成8	雷雨	
平成5、7、10	そのほか 小雨	
平成13		6月の 第2土曜

28年連続!!

現在は、6月第2土曜日に行われているチャグチャグ馬コですが、2000年(平成12)までは毎年6月15日に行われていました。6月15日になった1958年(昭和33)から2000年(平成12)までの43回の間、雨がふったのは、昭和38、39、平成5、7、8、10年の6回。このうち雷雨となった平成8年のほかは、小雨程度。1965年(昭和40)~1992年(平成4)までは晴れがつづき、まさに「チャグチャグ馬コ雨知らず」! 実は、この6月15日は「晴れの特異日」とよばれ、「晴れ」になることが多い日といわれています。

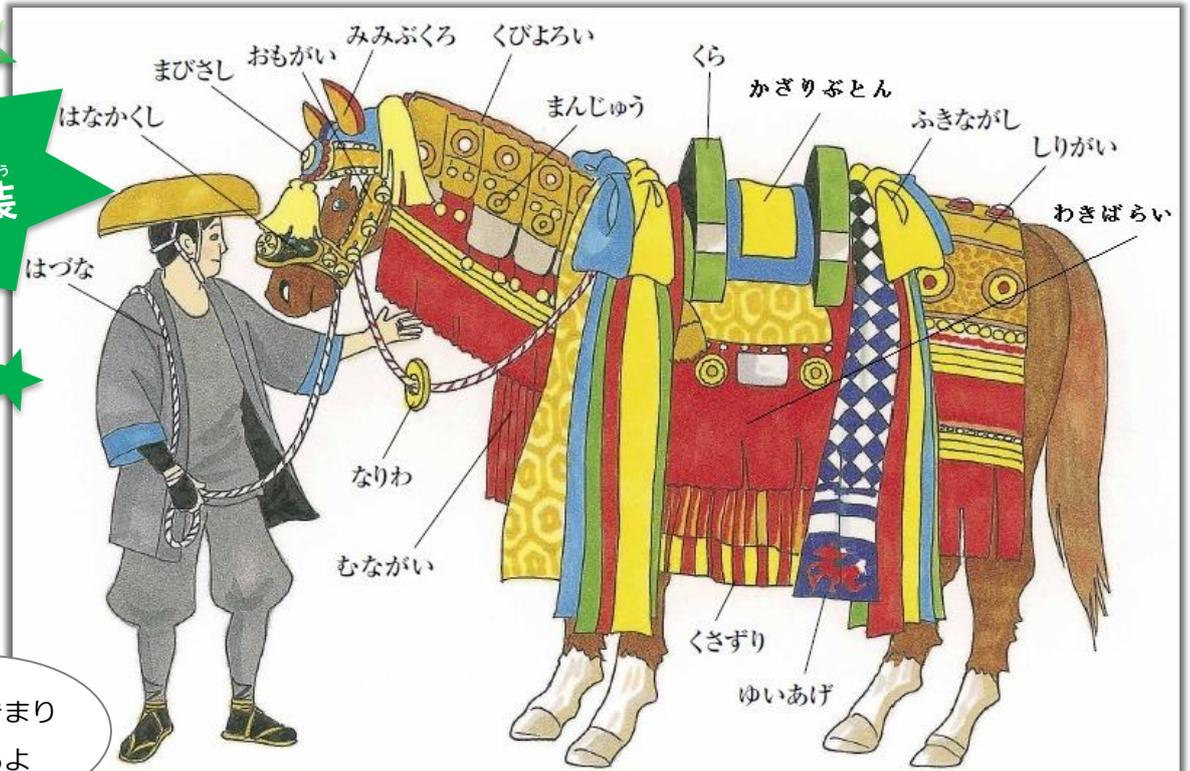
なお、1957年(昭和32)までは旧暦5月5日に行われ、確認できた中では、昭和7、10、11、13、16年が雨でした。1938年(昭和13)は、前日からの雨がやまず、出発時間をおくらせ、ようやく集まった2頭で出発したと『新岩手日報』1938年(昭和13)6月3日の記事に書かれています。

晴れた年が多いけど…  
雨の年もあったんだね。

# チャグチャグ馬コあれこれ

## 馬コのおよそ

チャグチャグ馬コの見どころは、はなやかな衣装と | 頭あたり 700個とも  
 言われる衣装につけられた鈴の音。馬の衣装は、汗に強い良質の麻を使った手編みで、染め方は紫根  
 染めや草木染め。紫根染めに使う植物「ムラサキ」の根は、古くからの岩手の特産品です。この地方なら  
 での素材、昔ながらの手作りでていねいに仕上げられます。



一定のきまり  
があるよ

画像提供：滝沢市経済産業部観光物産課



### 衣装の 取り付け

① 鞍をつけて、飾りぶとんをかけます。結び上げという布で、おなかの  
 部分をまいて包みこみ、両はしを二つに割って鞍の前後でそれぞれ結  
 び、あまりを馬のあしにそってたらしめます。

② 鳴り輪をつり、鞍を固定するむながい、しりがいをつけ、くさずりをさげ、首に首よろい、額にまび  
 さし、顔に鼻かくし、耳に耳袋をつけます。

③ 吹流しと呼ばれるたれ布を鞍の前後にさ  
 げます。



引く人も乗る人  
も、昔ながらの  
衣装だね



衣装には鈴のほか、「まんじゅう」と呼ばれる花もよしの布製の  
 飾りが数多くつけられています。  
 衣装の重さは全部で約60キログラムも  
 あります。

画像提供

## 馬コの衣装、もともとは…

江戸時代の盛岡藩のお殿様・南部家の参勤交代の馬の衣装が元といわれています。江戸時代のお殿様は、自分の領地と江戸(東京)を行き来する生活をしていました(参勤交代)。馬は、ほかのお殿様への贈り物などの荷物をせおい、着飾ってこの旅の行列に加わりました。お殿様に馬を提供した農村の人々は、ごほうびに馬の衣装をもらって家宝とし、蒼前まいるの馬に着せるようになりました。これがチャグチャグ馬コの原型になったといわれています。

### 県立図書館 のお宝拝見!

お殿様の行列をえがいた  
「南部藩大名行列図」



とってもなが〜い絵巻物。たくさんのお家来たちにもまじって、馬もえがかれているよ



### 郷土玩具

チャグチャグ馬コにちなんで作られた民芸品「チャグチャグ馬コ玩具」。1947年(昭和22)~1948年(昭和23)ころから作られ、おみやげ品として売られるようになりました。木で作った馬に色を塗って本物と同じように着飾り、「チャグチャグ」とかわいいうる音をひびかせます。1つ1つ手作りで、縁起のよい贈り物としても喜ばれています。(大正末~昭和初年から作られていて木製と土製があった、という説もあります。)



画像提供：盛岡市交流推進部観光課

### 民謡

チャグチャグ馬コの行列を先導する広報車からは、民謡「チャグチャグ馬コ」のメロディーが流れています。この唄は昭和中期につくられた新しい民謡で、元の唄は花巻市大迫町の「一寸きま」(「ちょっとの間」という意味)といわれています。古くから馬の産地であった岩手県には、馬にちなんだ民謡が多く伝わっており、チャグチャグ馬コの際には、ほかに民謡「南部馬方節」も流れます。

## ポスト 豆ちしき

もともとは農作業で働く馬をねぎらう意味があったチャグチャグ馬コ。機械の発達で農業に馬が使われなくなり、農家で馬を飼うことはなくなりましたが、チャグチャグ馬コに参加する馬は、滝沢市の「馬っこパーク・いわて」(馬とふれあえる公園)で大切に育てられています。馬コは園内でくらしながら、地域のふれあいイベントに参加したり、全国各地へ出向いてのPR活動もしています。

チャグチャグ馬コは  
年に1度だけど…

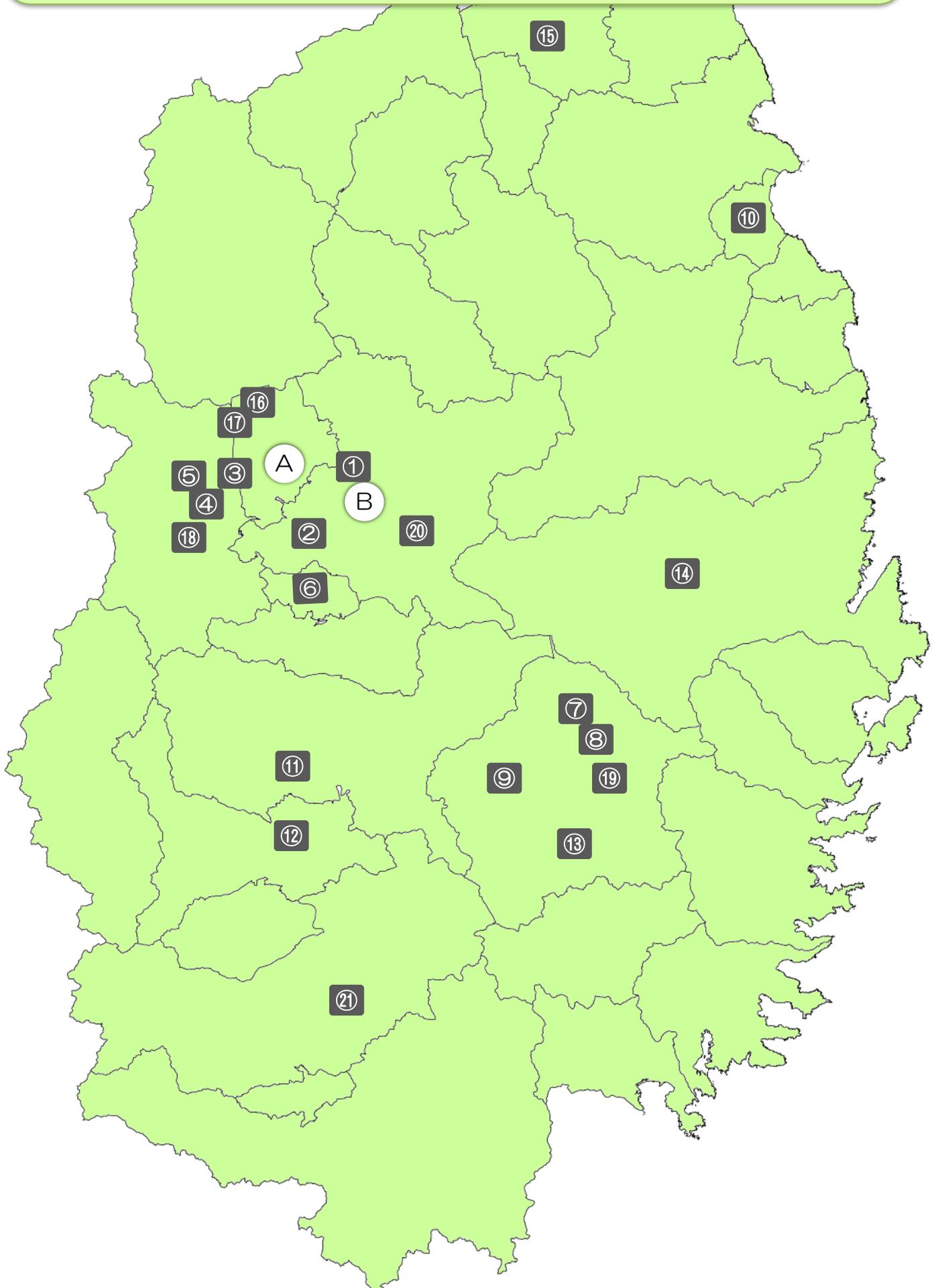


ふだん、馬コは  
どうしている  
の?





# 岩手の馬コマップ



# チャグチャグ馬コ

スタート

おにこしそうぜんじんじゃ  
鬼越蒼前神社 A

住所:滝沢市鶴飼外久保 46-2

電話:019-684-2111(滝沢市役所)



がそうていきよう たきざわしかんこうきょうかい  
画像提供:滝沢市観光協会

ゴール

もりおかはちまんぐう  
盛岡八幡宮 B

住所:盛岡市八幡町 13-1

電話:019-652-5211



がそうていきよう もりおかはちまんぐう  
画像提供:盛岡八幡宮



## 曲がり家

### ①岩手県立博物館

住所:盛岡市上田字松屋敷 34

電話:019-661-2831

### ②太田民俗資料館

住所:盛岡市中太田深持 9

電話:019-658-1330

### ③盛岡手づくり村

住所:盛岡市繫字尾入野 64-102

電話:019-689-2201



きょうどがんく  
郷土玩具「チャグチャグ馬コ」

製作体験

がそうていきよう もりおかて むら  
画像提供:盛岡手づくり村

みちのく工房

### ④御所湖広域公園さくら園

住所:盛岡市繫尾入野 64-6

電話:019-692-4855

### ⑤雫石町歴史民俗資料館

住所:雫石町西安庭第 15 地割 39-7

電話:019-692-3942

### ⑥矢巾町歴史民俗資料館

住所:矢巾町大字西徳田第 3 地割 188-2

電話:019-697-3704

### ⑦遠野ふるさと村

住所:遠野市附馬牛町上附馬牛 5-89-1

電話:0198-64-2300

### ⑧伝承園

住所:遠野市土淵町土淵 6 地割 5 番地 1

電話:0198-62-8655



がそうていきよう とおの しょうしゃ  
画像提供:(株)遠野ふるさと商社

### ⑨南部曲り家千葉家

住所:遠野市綾織町上綾織 1-14

※2016年より約10年間改修中/見学不可

### ⑩アジア民族造形館

住所:九戸郡野田村大字野田 6-75

電話:0194-78-3252

### ⑪旧小原家住宅

住所:花巻市東和町谷内 6-37

電話:0198-45-1311(花巻市文化財課)

### ⑫みちのく民俗村

住所:北上市立花 14-62-3

電話:0197-72-5067

# 馬の展示



### ⑬遠野市立博物館

住所:遠野市東館町 3-9

電話:0198-62-2340

### ⑭宮古市立

北上山地民俗資料館

住所:宮古市川井第 2 地割 187-1

電話:0193-76-2167

### ⑮軽米町歴史民俗資料館

住所:軽米町大字軽米 9-53-1

電話:0195-46-4232

## 馬とふれあう

### ⑯馬っこパーク・いわて

住所:滝沢市砂込 389-18

電話:019-688-5290



がそうていきよう たきざわしかんこうきょうかい  
画像提供:滝沢市観光協会

### ⑰小岩井農場まきば園

住所:雫石町丸谷地 36-1

電話:019-692-4321

### ⑱しずくいしYU-YUファーム

住所:雫石町南畑 33-23-14

電話:019-681-7828

### ⑲遠野馬の里

住所:遠野市松崎町駒木 4-120-5

電話:0198-62-5561

## 競馬場

### ⑳盛岡競馬場

住所:盛岡市新庄字上八木田 10

電話:019-651-2999

### ㉑水沢競馬場

住所:奥州市水沢姉体町字阿久戸 1-2

電話:0197-23-2999

馬にまつわる  
場所がたくさん  
あるね!



# 参考文献

## 図書

- ・『岩手県史 第9巻』岩手県//編 杜陵印刷 1964.3
- ・『岩手県の歴史』細井 計//著 伊藤 博幸//著 菅野 文夫//著 鈴木 宏//著 山川出版社 2009.12
- ・『岩手百科事典』岩手放送岩手百科事典発行本部//編 岩手放送 1988.10
- ・『岩手の絵馬』岩手県立博物館//編 岩手県立博物館 1985.1
- ・『いわての郷土芸能』岩手日報社出版部//編集 岩手日報社 1992
- ・『岩手の先人100人』岩手日報社出版部//編集 岩手日報社 1987.12
- ・『岩手の年中行事』小形 信夫//執筆 金野 静一//執筆 岩手県文化財愛護協会 1984.1
- ・『岩手の民俗散歩』佐藤 敏彦//編著 金野 静一//編著 熊谷印刷出版部 1984.5
- ・『岩手民間信仰事典』岩手県立博物館//編集 岩手県文化振興事業団 1991
- ・『馬のいた風景』もりおか歴史文化館//編集 もりおか歴史文化館 2014.10
- ・『鬼越蒼前祭チャグチャグ馬コ』吉田 芳哉//編著 熊谷印刷出版部 1981.6
- ・『北の馬文化』岩手県立博物館//編集 岩手県文化振興事業団 2000.10
- ・『旧南部藩領の消え行く茅葺「曲り家」』今野 幸正//著 川口印刷工業 2008.7
- ・門屋光昭「賢治と啄木とチャグチャグ馬コ」『東北文学の世界 第6号』盛岡大学文学部日本文学科 1998.3
- ・安藤直子「資源化される祭り」『東北福祉大学研究紀要 第34巻』東北福祉大学 2010
- ・『新岩手の民謡』岩手県民謡協会 2014.6
- ・『図説岩手県の歴史』細井 計//責任編集 河出書房新社 1995.10
- ・『「チャグチャグ馬コ」調査報告書』盛岡市教育委員会//編 盛岡市教育委員会 1981.3
- ・『「チャグチャグ馬コ」調査報告書』盛岡市教育委員会//編 盛岡市教育委員会 1991.3
- ・『チャグチャグ馬コの記』滝沢村 2000
- ・『チャグチャグ馬コの記』滝沢市観光協会 チャグチャグ馬コ保存会 2017
- ・『東北古代史の研究』(入間田宣夫「糠部の駿馬」)高橋富雄//編 吉川弘文館 1986.10
- ・『南部曲がり家読本』瀬川 修//著 無明舎出版 2007.7
- ・『農民生活変遷中心の滝沢村誌』福田 武雄//編著 滝沢村 1974
- ・『盛岡の先人たち』盛岡市先人記念館//編 盛岡市先人記念館 2003.8
- ・『よくわかる盛岡の歴史』加藤 章//著 高橋 知己//著 藤井 茂//著 八木 光則//著 東京書籍 2016.8

## ウェブサイト

- ・馬っこパーク <https://umakkopark.wixsite.com/umakkoiwate/umakko>
- ・盛岡市 > 観光 > 盛岡市の観光 > チャグチャグ馬コ保存会  
<http://www.city.morioka.iwate.jp/kankou/kankou/umako/index.html>
- ・いわて馬っこめぐり (PDF 2.9MB)  
[https://www.pref.iwate.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/012/014/umakko-guidemap.pdf](https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/012/014/umakko-guidemap.pdf)

最終アクセス:2021.5.1

# 協 力

ごじゅうおんじゅん けいしょうりやく  
五十音順・敬称略

- いわてけんりつはくぶつかん  
・岩手県立博物館
- いわてまちきかくしょうこうか  
・岩手町企画商工課
- かぶしきがいしゃとおの しょうしゃ  
・株式会社遠野ふるさと商社
- いっぱんしゃだんほうじんとおの こうしゃ  
・一般社団法人遠野ふるさと公社
- ごしょの じょうもんはくぶつかん  
・御所野縄文博物館
- たきざわしかんこうきょうかい  
・滝沢市観光協会
- たきざわしきかくそうおぶきかくせいさくか  
・滝沢市企画総務部企画政策課
- たきざわしけいざいさんぎょうぶかんこうぶっさんか  
・滝沢市経済産業部観光物産課
- とおのごうはちまんぐう  
・遠野郷八幡宮
- もりおかしこうりゅうすいしんぶかんこうか  
・盛岡市交流推進部観光課
- もりおかしせんじんきねんかん  
・盛岡市先人記念館
- もりおか て むら こうぼう  
・盛岡手づくり村みちのく工房
- もりおかはちまんぐう  
・盛岡八幡宮

ご協力ありがとうございました。



岩手県立図書館 子ども向け郷土資料 きょうどしりょう vol.6

チャグチャグ馬コ

発行：岩手県立図書館指定管理者

令和3年6月